



学習発表会での子ども達にたくさんのお励ましをいただきました。大変ありがとうございました。

「感動」達成への道 その3

6年「きゅうどう様」～「おわりのことば」

ここは、あいば村。墨田川と黒田川に挟まれた小さな村。大雨のたびに黒田川の水があふれ村が流されてしまいます。土手を築かないといつ大きな洪水になるかわかりません。そこへ現れたのが、怪しいお札を売りにきた「きゅうどう」という男。村長たちは、きゅうどうに「お地藏様が乗りうつった」「土手を築けとお告げがあった」とうそを言わせます。それを聞いた村人達は・・・。



場面を変えていくときの一声に、こちらも驚かされ、引きつけられた瞬間でした。すごいなあと思いました。

みんな、めんこくてかっこよかったです。もっとたくさんの人に見てもらいたかったなと非常に残念に思います。

あれだけの衣装を準備できるのも地域のすばらしさを感じました。

みんなすごくよかった。声も出ていたし、動きもその役になり切っていてよかった。5・6年生のなってきたこの子達の成長をすごく感じました。劇の中、みんなが協力して土を運ぶところとか、今までの学校生活の中でもこうして協力してきたのだろうなと思うと涙が出てきて・・・。どの子もキラキラしていました。

子ども達の目線に注目です。セリフのある子、ない子、のどちらも演技をしていて、どの子も今にもセリフを発しそうな存在感をもっています。セリフを言う子を見ている子、別な演技をしている子、・・・。立派な役者ぶりです。ぜひ、表情をご覧くださいたいです。

6年間のなかでこれほどクラス一丸となってしっかりとつくりあげた劇に涙がこみ上げるほど感動しました。セリフが詰まるところがなかったのも、ただ覚えただけでなく自分達の気持ちを込めて、自分達で創り上げたからだ実感しました。

6年生になって急成長したように感じた。1年間でこんなに成長できるって、みんなすごいなあと思った。先生、ありがとうございました。

<1年生の保護者から> 1年生の発表の途中で6年生の手拍子が入り、1年生の子どもが笑顔で元気に踊る姿にうれしいなと思いました。6年生のあたたかい応援ありがとうございました。

「感動」達成への道 子ども達がたどって着いた場所

すべてを締めくくった6年生の声

私は100点をつけます！

みんなで協力したら楽しかった。

ほっとしています。

みんなで意見を出し合いそれを受け入れてどんどん成長できた、

「おー」のとき、しっかり声をだしたりアドリブをがんばったりした。

自分は、今だれがしゃべっているかわかりやすいように少し後ろに下がって、セリフを言うときには前に出た。

とてもやりきった気持ちでいっぱいです。終わった瞬間に（苦労が）全部吹っ飛びました。前の時（予行）よりすっごく達成感が大きかった。

今までの6年間の思いを込めて演技できたし感動を伝えることができた。これからは、今回のようなチームワークや責任をもって演技や行動をしていくことを大事にしたい。

私は100点をつけます。理由は練習のときにアドバイスをしたりいろいろなことを工夫したりして本番で成功させようという思いがあったし（50点）、本番では悔いの残らないくらい全力でできた（50点）から100点です。

学校をよりよくしていこうこれこそが、代々子ども達に受け継いでほしいことです。このような“気持ち”と“行い”が受け継がれることこそを“**伝統**”と呼びたいと思います。そして、受け継ぎたいと思われる6年生がいて、受け継ぎたいと思う下級生がいる学校を「**よい学校**」と言うのだと思うのです。

6年生の感想に「1～6年生が全力で演技し、まわりの人を感謝・感動を伝えられたと思います。」という感想がありました。全体を締めくくった6年生ならではの言葉です。また、5年生もよく見て感じてくれました。

「感動」を目指して進んだ道、子ども達はかなりの高見に到達したようです。

締めくくりを見届けた5年生の声

私たちも、6年生のようになれるように

涙がでそうになりました。

6年生の劇が、「風がふいているように」歩いたり重い荷物を持ったりしているようすごいと思った。

6年生のようになれるようにこれからの生活で6年生を見習いたくさん学んで、下の学年から「すごい！」「いいなあ」などと思われるようにしていきたいです。

委員会や掃除のとき、6年生から学んだりすると、自分が6年生になる準備ができると思う。

あと4か月半。6年生からバトンを受け取ることができるよう準備をしていきたいです。

6年生は、最後学習発表会でしまっている感じがしてカッコいいと思います。

予行の時より、ものすごく気持ちがかもっていて、気持ちがかわったなと思った。

自分から考えて自分より下の子達の手本となりようにしたいです。廊下を走っている子がいるときは手本になるように歩いたり、あいさつをしない子がいる場合は、自分がしっかりあいさつする。このように学校をよりよくする。礼儀正しい種市小学校をずっと続けていきたい。

代表して、5・6年生の声をご紹介します。6年生からは、“やり切った感”が、それを見届けた5年生からは、「**自分達も6年生のようになりたい**」という声が聞かれました。6年生を見ての「**すごいと言われるようになりたい**」「**手本になりたい**」という言葉には、目指すべき「6年生」としての見本のようなものが見えたことが伺えます。また、「**学校をよりよくしたい**」という言葉も聞かれました。「**6年生になって**



子ども達に見てほしい姿 “もっと”

「前の日の準備」



「当日」



見ている人に気を使って仕事から戻る6年生

ドアの開閉係